

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム
横浜音祭り2022連携 体験型スペシャル版

記録集



ABOUT

プロのアーティストが横浜市立の学校に出向き、授業を通して子どもたちの自由な発想を導き、豊かな感性を育てる「横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム」。令和4年度は、横浜市の音楽フェスティバル「横浜音祭り2022」の次世代育成プログラムと連動し「体験型スペシャル版」として、実施回数を拡充して取り組みました。

市内6校・590人の子どもたちが、アーティストとともに音遊びや音楽づくりなどをはじめとしたワークショップを重ね、即興的な表現に挑戦したり、演奏技術にとらわれずに音楽を楽しむ経験をした今回のプログラム。この冊子は、各校の授業内容に加え、それぞれの学校・対象の子どもたちに合わせた多様なプログラムがどのように計画・実施されたのか、関わる人々の想いや願いが詰まった授業づくりの記録です。

普段の授業とはちょっと違う「特別な時間」。けれどこの授業を行ったのは、決して特別な学校ではありません。どの教室でも当たり前「特別な時間」を体験できるよう、このプログラムに携わった人々の想いや願いを受け取り、授業づくりのヒントにいただければ幸いです。

PROGRAM

P4-5

横浜市立 寺尾小学校(鶴見区)

対象:6年生



アーティスト

福本純也 坪根剛介 東野恵祐 マヤコ

コーディネーター

鶴見区民文化センターサルビアホール

平成23年3月に開館した横浜市鶴見区にある文化施設。通常時548名を収容し、音楽・演劇・ダンスなど用途に合わせて使用できる多目的ホールの他に、100名を収容する残響豊かな音楽ホール、自由自在に芸術作品を展示できるギャラリー、リハーサル室、練習室を兼ね備えている。貸館業務・自主事業制作を行うほか、地域の文化振興と鶴見の文化拠点として、近隣学校等においても多角的な活動を目指す。独自のオーディションによって選ばれた「サルビア・アーティストバンク」には、多彩な才能あふれるアーティストたちが登録されている。

P6-7

横浜市立 北山田小学校(都筑区)

対象:個別支援学級



アーティスト

びんたろー 歌子 上村純 小林展明

コーディネーター

NPO法人横浜こどものひろば

1978年、NPO法人横浜こどものひろばの前身である「横浜おやこ劇場」の発足以来、「一生大丈夫と思えるほどの子どもの時代を子どもたちに！」をキャッチコピーに、子どもたちのためのすぐれた芸術・文化活動の振興を行い、多様な世代の繋がりを通じて、子どもたちの成長を促す。子ども自身の社会参画の場として、子どもの文化的権利が保障される豊かな子ども時代の創造に寄与することを目的としている。子どもたちの日常の中に、あそびや芸術・文化体験が溢れ、豊かで人間的な文化環境の元で、子ども自身が主体的に創り出す「岩々しい子ども時代」「豊かな子どもの時間」は人々の心の原体験・原風景となって、生涯に渡り人々を変える力となると考え、事業を展開している。

P8-9

横浜市立 柏尾小学校(戸塚区)

対象:4年生



アーティスト

烏田晴奈 水杉亜希

コーディネーター

戸塚区民文化センターさくらプラザ

2013年8月開館の芸術文化施設。戸塚駅に直結し、アクセスの良い場所で文化の発信・拠点としてさまざまな芸術活動の普及・支援を行う。本格的なクラシックコンサート・伝統的な古典芸能など世界で活躍する多彩なアーティストを招き、上質な芸術体験を提供するとともに、ワークショップやアウトリーチ活動など地域への普及事業をアーティストと協力して実施している。そこに暮らす人々が芸術文化に触れる時間と空間を創造し、区民のステータスの向上に貢献する役割を担っている。

P10-11

横浜市立 桂台小学校(栄区)

対象:個別支援学級



アーティスト

ヒダノ修一

ワガン・ンジャエ・ローズ ポガ・ンジャエ・ローズ
太鼓集団ふじ オルケスタ・デラックス
パーカッションアンサンブルTUTTI! 石田裕人 村山二郎

コーディネーター

栄区民文化センターリリス

1998年にオープンした、県内屈指の響きを誇るコンサートホールを中心とした文化センター。内外の一流アーティストを招いてのコンサートや、若手アーティスト支援を目的とした「リリス・レジデンス・アーティスト」事業など、クラシック音楽に力を入れた事業を展開している。2007年度より継続して実施している「アウトリーチコンサート」や、0歳から楽しめる「ファミリーコンサート」、気軽に参加できる「リリス芸術大学」や子ども向け造形美術ワークショップ「コドモアートキャラバン」など、区民が文化芸術に触れ合う多様な機会を提供し、地域の文化発展に貢献できるよう努めている。

P12-15

横浜市立 緑園義務教育学校(泉区)

対象:前期課程 個別支援学級
後期課程 7~9年生



アーティスト

長井江里奈(山猫団)

北園優 鈴木綾香

ニシハラ☆ノリオ 山下彩子

コーディネーター

認定NPO法人STスポット横浜

地域の芸術文化機関として昭和62年に発足。小劇場「STスポット」を拠点に、国内外で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めている。平成16~20年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行った。平成20年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進している。

P16-18

横浜市立 盲特別支援学校(神奈川区)

対象:全学年



アーティスト

**大山大輔 根本真澄 宇根美沙恵
倉田莉奈 伊原農
トリオAXIS 瀧川鯉丸**

コーディネーター

神奈川区民文化センターかなっくホール

2004年の開館以来、「集い、ふれあい、つくりだすところを、ここかなっくホールから」をキーワードに、区民への上質な芸術鑑賞機会の提供にとどまらず、ホールが「まちの広場」となり、普段知り合えない人々が芸術文化を介して知り合いとなり、習得持たない役割や可能性を見出し、生活の質の向上を図っている。大人も子どもも楽しめる学びの場となる「かなっくキッズクラブ」等々の多様な部や、リビングコンサートの会など特色のある会をシリーズ化し継続している。全館を開放して実施する「KIDS DAY!」や「ブルクミューラーフェスティバル」などの大掛かりな参加事業や公立学校へのアウトリーチへも力を入れている。

※横浜市では特別支援学級を「個別支援学級」と呼称するため、この記録集では「個別支援学級」と表記しています。

まら お

寺尾小学校 (鶴見区)

実施クラス：6年生3クラス
 対象人数：95人
 実施日程：全4日 (2022年11月21日、12月5日、12月9日、12月17日)

「バンドと一緒に演奏体験をしよう！」をテーマに、クラスごとに歌唱・演奏する課題曲を作りあげました。ジャズミュージシャンと共に活動する中で、楽曲の構造やリズムについての理解を深め、楽曲の根底にある Groove(グルーブ)を体感しながら、曲を仕上げていきました。授業最終日には、3クラス合同で、保護者の前で課題曲を披露するコンサートをを行いました。



授業の流れ

Day1 【グルーブを体験する】初めに、ジャズバンドの生演奏が披露され、子どもたちは「すごい！」「かっこいい！」と心を掴まれていた。その後、グルーブやビートについてアーティストが説明をし、バンドの演奏を聴きながらアクセントがどこに置かれているかを考えたり、グループや楽器に分かれ、パートごとに異なるアクセントでビートを刻むワークを行い、グルーブを体感した。

Day2 【課題曲の構造を知って改造する】子どもたちが決めた課題曲の練習を行った。3クラスともに馴染みのあるポップスをそれぞれ選択し、まずは課題曲を歌えるよう練習をした。その後クラスごとに特徴を出せるよう、打楽器や小物楽器を使い、曲をアレンジして色合いに変化を付けていった。

Day3 【課題曲の仕上げ】発表に向けて最後の練習を行った。練習に余裕のあるクラスは、歌と演奏に加えて、曲に合わせた振り付けを考えた。歌詞から連想した振り付けを子どもたちが自発的に考えてきたクラスもあり、子ども発案を積極的に取り入れながら、課題曲を仕上げた。

Day4 【発表会&全体ワークショップ】オープニングアクトとして、アーティストがジャズの名曲を披露。その後子どもたちが発表を行った。発表しているクラスの児童に合わせて、他クラスの子どもたちも手拍子をして曲を楽しんでいる様子がうかがえた。後半は全体ワークショップとして、1回目の授業で学んだグルーブの復習をし、最後にラテンアレンジされた伴奏に乗せて全員で校歌を歌唱した。



こぼれ話

発表会終了後、ある保護者がアーティストの元へ、「ベースの速弾き初めて見ました！すごく良かったです、感動したので伝えたくて！」と声をかけていました。子どもだけでなく保護者にとっても、胸の高鳴る時間となったようでした！



アーティストの声

アーティスト！

福本純也 (ピアニスト、作曲・編曲家)

洗足学園音楽大学作曲科卒業後、ジャズに興味を持ち渡米。2008年パーカー音楽大学パフォーマンス科卒業。現在、ジャズとラテン音楽、そしてジャズ理論に精通したピアニストとして活動中。特に、童謡やクラシック等、異なるジャンルの音楽を独自のアプローチで編曲し演奏するスタイルは特徴的。

アシスタント：坪根剛介(ドラム)、東野憲祐(ベース)、マヤコ(企画)

ジャズのようにさまざまな要素で構成された音楽を子どもの頃から聴いていると、シンプルなコード進行ではない曲のアイデアも自然と頭に入ってくるようになります。今回の授業では、特にリズムの波に注目し、自分たちでもグルーブを作りながら演奏・歌唱しました。ポップスは歌詞や歌にスポットが当たりがちですが、グルーブ上にメロディやハーモニーが乗って音楽が成立していることを体感してほしかったためです。決められた楽譜ではなく、聴いたものに対して自分の思うままにリアクションできるようになってほしいと思っていたので、曲に合わせて自然と身体を動かしたり、楽しそうに楽器を演奏してくれて良かったなと思います。発表に向けてクラスごとに工夫しながら頑張ってくれて、発表後の清々しい顔はとても素敵でした！

先生の声

外部の方と交流することでしか学べないことがあると思います、このプログラムに応募しました。歌が好きな子どもたちが多いので、みんなで歌を楽しむことを前提に、アーティストと共に授業内容を考えました。今回はポップスの曲を使用し、発表する曲も子どもたち自身で選んでもらったので、前向きに楽しんで参加していたように思います。寺尾小学校の学区は駅から距離があり、駅前に住む子どもたちと比べて日常の中でコンサートホールなどと接点を持つ機会が少ないので、学校でいろいろなものに触れ、楽しみ方を知る機会を作ればと思っています。この授業はまたいつでもやりたいです。

子どもたちの声

最初の授業で聴いた知っている曲のジャズアレンジがすごかったです/ピアノもベースもドラムも音がきれいで、こんな音を出せるなんて本当にすごかったです/めったに聴けないジャズを聴けて楽しかったです/アーティストの演奏に合わせて歌うのが楽しかったです/ジャズが少し気になりました/この授業で改めて歌は楽しむためにあるものだと思えました/みんなと一緒に作り上げた達成感がありました/アーティストさんといういるなことができて楽しかったです/久しぶりみんなで歌うことができて良かったです

コーディネーターの声

コロナ禍で生の合唱を聴き合う機会が3年ほどなかったという子どもたちが、他クラスの合唱を嬉しそうに聴いている姿が印象的でした。約1か月、全4回のスペシャル版だったことで、アーティストと子どもたちの間に親近感が生まれ、それが演奏にも表れていたように思います。発表会後の全体ワークショップは、手拍子でグルーブを作った上に歌を重ね即興で曲を作り上げるもので、少し高度だったかもしれませんが、音楽のおもしろさの一端を感じてもらえたのではないのでしょうか。この先いろいろな音楽に出会う中で、この授業を思い出してもらえたら嬉しいです。

コーディネーター：鶴見区民文化センターサルビアホール (紹介はP.2)

きた やま た
北山田小学校 (都筑区)

実施クラス：個別支援学級3クラス
対象人数：20人
実施日程：全6日(2022年11月8日、11月15日、11月24日、
11月29日、12月5日、12月12日)

昨年度に引き続き、パーカッショニストのびんたろーさんを中心とした東京カンソンのメンバーが授業を行いました。どの発達段階の子も「自分にもできる!」と自信をもって取り組み、友達と共に活動する楽しさや良さを味わうことを目標に授業が設定されました。コンサートに向けて楽器づくりや歌と振り付けの練習を行い、最終日は保護者の前で授業の成果を披露しました。

授業の流れ

Day1	【楽器体験】アーティストによる演奏、手遊び歌の歌唱、ラテンパーカッションの楽器紹介、楽器体験を行った。手遊び歌には子どもたちも参加し、アーティストの歌と演奏に合わせて身体を動かした。後半は、アーティストが持参した楽器と学校にある楽器を織り交ぜながら、子どもたちが実際に楽器を手に取り、音を出す体験をした。
Day2	【楽器づくり①】前半は、コンサートに向けて楽器のパチ作りを行った。各自好きな色の箸を2本選び、アーティストの説明を聞きながら、箸を繋ぎ合わせてパチを作っていた。作ったパチで不要になった給食のお皿を叩きながら、叩く場所や叩き方、お皿の握り方、パチの幅による音の違いを体感した。後半はアーティストが子どもたちの頭上で太鼓を叩き、音に包まれる感覚を味わった。
Day3	【楽器づくり②】不要になった給食のプラスチック製のお皿を太鼓に見立て、コンサートに向けて楽器作りを行った。自分が使う楽器に愛着が持てるよう、子どもたち自身でデザインや装飾を考えた。マジックで絵を描いたり、好きなシールを貼ったりと、自由にお皿をデコレーションし、自分だけの楽器を作りあげた。
Day4	【振り付けを考える】コンサートで披露する楽曲の振り付けを、アーティストと子どもたちが共に考えた。大人が考えた振り付けを一方向的に教えるのではなく、一緒に考えて作る時間を設けたことで、子どもたちから「こんな風に動きたい」、「こういうポーズをしたい」という声が積極的にあがり、それらをまとめながら振り付けを完成させた。
Day5	【コンサートへ向けた練習】コンサートに向け、4回目の授業で考えた振り付けを練習した。これまでの授業を担当してきたびんたろーさん、歌子さんに加え、コンサートで演奏する上村純さん(ギター)、小林展明さん(ベース)も参加し、本番を意識した練習を行った。
Day6	【コンサート】保護者が集まり、体育館でコンサートを実施した。アーティストによる自己紹介の演奏や手遊び歌の後、子どもたちは授業で作った楽器を手にも、練習した歌と振り付けを元気いっぱいに披露した。その後は保護者も参加し、アーティストの演奏と掛け声に合わせた体操が行われ、大人も子どもも一体となって身体を動かした。全ての演目が終わった後、アンコールで子どもたちが再び曲を披露した。



アーティストの声

「アーティスト!」

びんたろー (パーカッショニスト、作曲、編曲家)

多様なジャンルからミュージシャンが集まり、独自の音楽で活動する「東京カンソン」。メンバーの個性で、アフリカ、中南米等世界の民族音楽の要素をふんだんに盛り込みながら、独特なハーモニーとボーカル歌子の透明感のある歌声で、日本の童謡民謡歌、民謡等を、現代的、斬新なアレンジで次世代に歌い継ぐ。今回のプログラムでは、東京カンソンから3人のメンバーが選出されて授業が行われた。

アシスタント：歌子(ボーカル)、上村純(ギター)、小林展明(ベース)

「音楽は好きだけれど、音楽の授業は苦手」という子どもたちにとって、音階に囚われない打楽器は、音を楽しむ入口として相性が良いと感じています。「ただ音楽を好きでいてほしい」という気持ちで授業をしていたので、教えるというより、他愛のない会話をしながら一緒に時間を過ごしている感覚でした。今年度は授業が6回あったので、時間をかけて楽器づくりを行いました。集中力が切れたら楽器を触って遊ぶ時間も作れたので、より子どもたちのペースに合わせて進めることができたと思います。授業数が多いほど、子どもたちにとって音楽が近い存在になっていくので、6回だけだったのはありがたいことだと感じています。

先生の声

さまざまな楽器、演奏に触れる経験や、振り付けを考えて伝えている姿を見て、感受性や表現力が養われているように感じました。学校にはないラテン楽器に実際に触れることができ、子どもたちはとても喜んでいました。ステージの上に立ち保護者に向けて発表することで、ほどよい緊張感を持つことができ良かったです。

子どもたちの声

いろいろな楽器に触ることができて楽しかったです/初めて見る楽器があっ
ておもしろかったです/びんたろーさん
のめずらしい楽器を見たり、音を出
したりしたのが楽しかったです/歌子
さんの声がきれいでした/ステージで
うたっておどったのが楽しかったです



コーディネーターの声



2年続けての授業ということで、初日から「びんたろーさんだ!」、「あっ歌子さん、ひさしぶり!」と歓迎していただきました。今年度は「横浜音楽祭2022」と連動して6日間の実施となり、アーティストたちも急ぐことなくゆったりとした時間を紡ぎ出すことができたと思います。最終日までさまざまなことがありましたが、5日目まで参加のなかった子が、本番では体育館の壇上で、歌と演奏、振り付けに参加しており感動させられました。コンサートの終わりに、アーティストからの「もう一度演奏する?」の呼び掛けに、壇上に駆け上がる子どもたちの姿は忘れることができません。

コーディネーター：NPO法人横浜こどものひろば
(紹介はP.2)

かし お
柏尾小学校 (戸塚区)

実施クラス：4年生3クラス
対象人数：112人
実施日程：全6日 (2022年11月22日、11月24日、11月29日、
12月1日、12月2日、12月8日)

6日間の授業日数を4年生の3クラスに分配し、各クラスごとに7時間分の授業を行いました。表現したい音楽を友達と共に削り上げる体験ができるよう、グループ創作の形をとりました。子どもたちは学校にある楽器を使用しながら、自分たちが考えたストーリーを音で表現し、楽譜(グラフィックスコア)を完成させました。

授業の流れ

Day1

【導入】前半は、「表現」に慣れること、そして一つの楽器で複数の奏法ができることを体感するために、アーティストの演奏から情景をイメージする、スカーフを使って身体表現をする、紙でいろいろな音を出してみるというワークを行った。後半は最終日の発表に向けた課題の説明と、アーティストによる模範演奏が行われた。



Day2
↓
Day3

【実習①グラフィックスコアを学ぶ】「クリスマス」、「宇宙」、「森」の3種類のストーリーカードの中からグループごとに1つを選び、指揮者役の児童を中心に、カードを並び替えながらストーリーを考え、カードを見て、「動物がジャンプしている気がする!」、「じゃあピョンピョンかな?」などと思いついた情景を伝え合いながら、各シーンに合う音を考え、その音を演奏する担当者を決めた。その後、音楽室に用意されたたくさんの楽器に触れ、担当する音に合う楽器選びを行った。後半はアーティストがグラフィックスコアについて説明をし、子どもたちは記号や図形などを使って、表現したい音や演奏の進め方を自由に描いていった。

※2日目は2組と3組、3日目は1組が、各2時間、実習①を行いました。

Day4
↓
Day5

【実習②グループ創作】発表に向けて、グループでの創作活動を進めた。誰かが出したアイデアに対し、「それならこういうのもやるよ!」とさらなるアイデアが生まれ、ブラッシュアップしながら曲を作っていた。「宇宙」を選んだグループの中には、「爆発した後、星の残骸がチラチラと散って、段々音が小さくなって、最後に指揮者が手をグーにしたらシーンとさせよう」と、音を出さない場面にまで考えを巡らせている子どもたちの姿も見られた。アーティストが複数の奏法を教えることで、1つの楽器からさまざまな音色を奏で、異なるシーンの演奏ができることも体感した。

※4日目は2組と3組、5日目は1組が、各2時間、実習②を行いました。

Day6

【発表】発表前に最後の練習時間が設けられ、指揮者を中心に子ども同士で意見を出し合い、仕上げを行った。発表では指揮者がストーリーを説明した後、演奏が披露された。アーティストが即興で演奏に加わるサプライズが企画されており、各グループ1度目の演奏を終えた後、アーティストが加わったスペシャルバージョンで2度目の演奏を行った。子どもたちはストーリーを想像しながら演奏を聴き、演奏後はたくさんの感想が飛び交っていた。

※発表は各クラス2時間。3組は5日目に発表を行いました。



アーティスト
烏田晴奈 (作曲家)

音楽と自作のアニメーションを組み合わせた動画作品を制作し、学生CGコンテスト特別賞など多数受賞。現在はTV、CM、アート作品、多様なメディア作品に音楽を提供している。sony toio「おんがくであそぼうプロジェクト」開発メンバー。

水杉亜希 (パーカッショニスト)

マリンバアンサンブルのCDアルバムをリリースの他、ゲーム音楽や制作レコーディングなどに参加。リトミックを交えた子ども向けコンサート、楽器作りのワークショップ、アートとリトミックのコラボイベント、小中学校の芸術鑑賞会、プラスバンドの指導など、主に子どもに向けた音楽活動をしている。

アーティストの声

順序立てて創作しようとしたところが飛び越えて、ストーリーからすぐに具体的な音のアイデアにアクセスできている子もいて、感性の豊かさにとっても驚かされました。時間をかけて曲を作るうちに、「自分たちの曲をしっかり作り上げるんだ」という責任感が生まれていたように感じます。私達の想像以上のリアクションが返ってくるのが本当に多く、とても刺激的な時間でした。(烏田)

ここまで時間を使って子どもたちとクリエイティブな活動をする機会はとても貴重だと感じます。決められた答えを導き出す授業もある中で、何をやってもどんな形でも正解なんだよというのを一番に伝えたいと思い授業に臨みました。正解がない中で選択して何かを作り上げた経験は、子どもたちの人生をより彩り豊かなものにしてけると信じています。子どもたちの意欲が本当に素晴らしく、私たちが用意していた以上のことを学んでくれたと思います。(水杉)



先生の声

「こう表現したい」という思いをもって演奏するという原点を経験し、音楽の本質を教えていただきました。1クラスにつき7時間もアーティストに関わっていただいたおかげで、普段できない授業ができました。授業計画の段階でかなりのわがままを言ってしまいましたが、コーディネーターとアーティストの方にすべて形にいただき感謝です。楽器が苦手な児童も楽しんで活動していて、全力で「音を楽しむ」ができた時間でした。

子どもたちの声

よく聴く音楽は歌詞が付いているけれど、音だけでもいろいろな想像ができることが分かって楽しかったです/みんなでお話づくりをすると、他の人のアイデアから想像が膨らんで、良い作曲ができました/記号などで自由に楽譜を描いたり、触ったことのない楽器を演奏することができて、良い経験になったと思います/発表は緊張したけどいろいろな楽器があって心が弾みました/全員がリーダーのように取り組んでいて、胸を張って指揮者ができました



コーディネーターの声

楽譜の作り方を知ってほしい、音楽を創作する経験をしてほしい、たくさんの楽器に触れて音に対する想像力を膨らませてほしい、大人からの提案ではなく子どもが発する物を形にしたい、みんなで一つのものを作って達成感を味わってほしい。6日間の長期日程を活かして楽しく音楽づくりを体験できるよう、アーティスト、先生、コーディネーターで何度も話し合って授業を組み立てました。子どもたちが前のめりに取り組み、楽しいと言ってくれたこと、本当に嬉しく思っています。自分も受けてみたかったと羨ましく感じる、夢のような授業だなと思います。

コーディネーター：戸塚区民文化センターさくらプラザ (紹介はP.3)

かつら だい
桂台小学校 (栄区)

実施クラス：個別支援学級 2 クラス (一部の授業で他クラスの参加あり)
対象人数：11人
実施日程：全6日 (2022年10月31日、11月30日、12月2日、
12月19日、2023年1月19日、1月23日)

昨年度も桂台小学校にて授業を行ったアーティストのヒダノ修一さんが、学校側の希望を受け、6組のアーティストに依頼して授業を行いました。「学校に居ながらにして、世界の音楽をめぐる旅にかけよう」をテーマに、和楽器、洋楽器などバラエティーに富んだ内容かつ必ず打楽器を含むことを条件にアーティストが選ばれ、6つの全く異なる世界観のプログラムが実現しました。

授業の流れ

Day1



【アフリカの音楽】セネガルパーカッション界の第一人者を父に持つ、アフリカの伝統太鼓・サバルの奏者ワガン・ンジャエ・ローズさん、同じくセネガル出身で世界的に有名なグリオ(伝承音楽家)の一家出身であるボガ・ンジャエ・ローズさんが、体育館でコンサートを行った。2人の情熱的なパフォーマンスに触発され、子どもたちは声を出しながら、音楽に身を任せて身体を動かした。(5年生60人も参加)

Day2



【太鼓アンサンブル】体育館にて、ヒダノさんが監修する藤沢市の太鼓集団「ふじ」がパフォーマンスを行った。全員で叩く迫力満点の長胴太鼓、肩から太鼓を吊り下げて軽やかに演奏する桶胴太鼓、2人で高速フレーズから始めるテンポの速い締太鼓の曲など、バラエティー豊かな太鼓の音色が体育館に響いた。桂台小学校は太鼓が盛んということもあり、子どもたちは手拍子をしたり、夢中で迫力ある演奏に見入っていた。(4年生60人も参加)

Day3



【マリンバ&打楽器】学校でのアウトリーチやコンサートホールでの演奏、路上ライブなど幅広く活動する4人組「パーカッションアンサンブル TUTTI！」が教室にてパフォーマンスを行った。運動会でお馴染みの曲など、子どもたちが楽しみやすい曲が次々と演奏され、リズムを取りながら鑑賞していた。

Day4



【スティールパン&パーカッション】パーカッショングループ「オルケスタ・デラックス」の2人が教室で授業を行った。カリブの楽器・スティールパンを中心に、世界中のさまざまな打楽器が用意され、初めて見る楽器に子どもたちは興味津々だった。間近で披露されたアーティストの演奏に手拍子で応えたり、積極的に楽器に触り、演奏体験に参加する姿が見られた。

Day5



【JAZZ】体育館にて、石田裕人さんを中心としたジャズバンドのコンサートを行った。ヒダノさんも一部の曲に和太鼓で参加し、子どもたちとコミュニケーションを取りながらのコンサートとなった。ジャズにより親しみを持てるよう、裏拍をとる「ノリ方」が伝えられ、子どもたちもジャズの楽しみ方を掴むことができた様子だった。(6年生70人も参加)

Day6



【篠笛+太鼓デュオ】篠笛奏者・村山二朗さんとヒダノさんが、体育館にてコンサートを行った。上から音が降ってくる篠笛と、下から音が響いてくる太鼓で子どもたちを包み込み、全身で音を感じる時間となった。最後は子どもたちが運動会で踊った曲でもあるソーラン節をアレンジバージョンで演奏し、アーティストの演奏と子どもたちの踊りが一体となって大きく盛り上がった。(3年生60人も参加)



「アーティスト」

ヒダノ修一 (太鼓ドラマー、イベントプロデューサー、作・編曲家)

世界41ヶ国で太鼓史に残る偉業を数多く成し遂げるバイオニアの一人。太鼓界では最も多彩な活動で知られ、多数のアーティストの監修やレコーディングに参加。「FIFA サッカーワールドカップ」のFIFA公式開会式に3度出演。演劇音楽も多数経験している。

アーティストの声

最終日に参加してくれた村山さんと僕は、一緒にアウトリーチ活動を始めて30年以上になります。一方的に聴かせて終わりの芸術鑑賞だと記憶に残らないことが多いので、子どもたちを乗せ、身体を動かし、一緒に歌って踊って、全身で音を体感するプログラムになるよう意識しています。子ども騙しの演奏は決して子どもには通じないので、一本一本が勝負だと思って、一人ひとりの顔を見ながら演奏しています。最近は高校生以下をNGにしている一般のコンサートなども多いですが、誰もが気軽に生の音楽を楽しめる機会を失ってはいけないと思うので、アーティストが学校で演奏する機会がどんどん増えてほしいと願っています。

先生の声

今回は体験型スペシャル版ということで、合計6回も、いろいろなジャンルのアーティストのとても素敵な演奏を間近で聴くことができ、子どもたちも私自身も貴重な体験になりました。演奏を披露していただいた後に、アーティストの方々と触れ合う時間を持てたのも良かったです。学校での取り組みだけではとうてい設定できないこの場を提供いただけたことに感謝しています。個別支援学級の子どもたちはコンサート等のイベントに出かけるのが難しいこともあるので、今後も続けて申し込みたいです。

子どもたちの声

いろいろな音の楽器がたくさんあって楽しかったです/弓矢みたいな楽器があってびっくりしました/ソーラン節を踊れて良かったです/おうちじゃできないから、目の前で太鼓を見てすごかったです

コーディネーターの声

個別支援学級の子どもたちは集中して演奏を聴き、終演後は積極的に楽器に触ったり演奏したりしていました。6回とも全く違う世界観の楽器だったので、その違いも楽しんでもらえたようです。体育館で授業を行う日は、他学年の児童と共にアーティストのパフォーマンスを鑑賞しましたが、どの学年の子どもたちも、盛り上がってくると手拍子したり身体を動かしたり、アーティストへ質問したりして音楽を楽しんでいました。音の振動も伝わるような生の音楽、空間を共有できたのは、貴重な体験になったことと思います。

コーディネーター：栄区民文化センター・リス (紹介はP.3)



りよく えん
緑園義務教育学校 (泉区)
前期課程

実施クラス：個別支援学級5クラス (6～10組)
 対象人数：30人
 実施日程：全4日 (2022年10月13日、10月20日、
 11月30日、12月7日)

令和4年度に、緑園東小学校と緑園西小学校が統合してできた緑園義務教育学校の前期課程。令和2年度より2校の個別支援学級が合同で本プログラムを実施しており、3年連続で舞台芸術集団「山猫団」のアーティストが授業を行っています。専門分野や個性の異なるアーティスト5人の特性を活かし、歌、ダンス、ものづくりなど幅広い授業内容が設定されました。



授業の流れ

<p>Day1 6～8組 19人対象</p>	<p>【自分たちでつくる】前半は、ピアノの音や言葉のイメージに合わせて即興で動いてみる、身体表現のワークを行った。後半は子どもたちがそれぞれに好きなものをつくる工作の時間が設けられ、作ったものをもとに、2回目の授業で歌う「たべもののうた」の歌詞やメロディーのアイデアを出し合った。</p>
<p>Day2 6～8組 19人対象</p>	<p>【「たべもののうた」のパフォーマンスをつくる】前回同様、ウォーミングアップとして身体をほぐすワークをいくつか行った。その後「たべもののうた」の練習をし、子どもたちから自然に出た動きを取り入れて振り付けを作っていた。後半は、食べ物を作る、もしくは自分自身を食べ物にする工作を行い、最後は鍋に見立てた黒い布の上で、「たべもののうた」のパフォーマンスをした。</p>
<p>Day3 9～10組 11人対象</p>	<p>【からだであそぶ】前半は、全員が1つの大きな輪になり、隣の人のポーズを次の人が少しずつ変えていくしりとり準備体操を行った。後半は6～8組同様、ピアノの音や言葉のイメージに合わせて即興で動くワーク、動くゴムに当たらないよう身体を動かすゴムくぐり、手のひらに乗せた紙を落とさないように走るリレーなどを行った。</p>
<p>Day4 9～10組 11人対象</p>	<p>【山をつくる】バケツとガムテープ、ペットボトルのキャップ、さまざまな素材の紐などを使って、山をつくるワークを行った。音楽が流れる教室内で、黒板に絵を描いてテープを貼ったり、先生にバケツを被ってもらい周囲をデコレーションしたり、大人の手を借りて高いところにテープを貼り付けたり、「山」と聞いて思い浮かんだものを自由に形にした。子どもたち全員が用意された素材に触れ、教室中に個性豊かな山々ができあがった。</p>



アーティストの声

「アーティスト」

長井江里奈 (舞台芸術集団「山猫団」主宰/ダンサー、演出家、ワークショップファシリテーター)

舞台芸術集団「山猫団」主宰。ダンサーとして国内・国外の様々な劇場のみならず、ライブハウス、商店街、美術館、商店などありとあらゆる場所でパフォーマンスをしてきた経験を生かし、2013年に山猫団を立ち上げる。2015年よりワークショップファシリテーターとしても活動。日本各地で子ども～大人向けのワークショップや市民参加型公演の演出を行っている。

アシスタント：北樹優 (ピアニスト、パフォーマー、楽曲制作)、鈴木綾香 (ダンサー、振付家) ニシハラ☆ノリオ (かぶり物アーティスト、造形作家、舞台美術家)、山下彩子 (ダンサー、アーティスト)

初年度はあまりワークに参加できなかった子どもが集中して目の前のことに取り組んでいて、3年でこんなに変わるのかと、成長に驚いた場面もありました。「僕はこの風に作りた」と伝えてくれたり、「見て！」と作ったものを自らアピールしたり、自分が作るものにこだわりを持ち、クリエイティビティを発揮できる子どもが増えてきたように感じます。先生方と信頼関係を築くことができたのも非常に大きく、授業を通して子どもたちに感じて欲しいことを先生方やコーディネーターの皆さんと共に考えたことで、ワーク中の細かい軌道修正や個別のケアがスムーズにできたと思います。3年目だからこそ見えること、できることがあり、継続することのメリットを強く感じました。



先生の声

山猫団の皆さんとの授業は今年が3年目で、子どもたちも担任もとても楽しみにしていました。自由に身体を動かしたり、好きなものを作ったりする姿を見て、子どもたちのやりたい気持ちを大事にしたいと改めて感じました。子どもの動きを見て、この子はこういうふうに関心があるなあと新しい気付きもあり、勉強になりました。緊張していた子も山猫団さんが作り出す楽しい雰囲気の中で落ち着いて参加することができ、授業後に「また来てくれるかな」と聞きにきた児童もいました。

子どもたちの声

たべものうたが楽しかったです/まさるちゃんのピアノが楽しかったです/まさるちゃんのピアノをまたしたいです/また工作をしたいです/楽しかったので7年生になってもやりたいです/やるのが毎回楽しくて良かったです/動く山を思いついて、山の動きにみんながウケていたのが嬉しかったです/自分の山がきれいでした

コーディネーターの声

子どもたちとも先生方とも3年目となった今回。全5クラスを2グループに分けて2回ずつ授業を組んだり、会場を昨年度までの体育館から多目的室に変更したりと、これまでの経験や築いてきた信頼関係によって、新たなより良い授業環境を先生方と一緒に探ることができました。内容についても、アーティストを全面的に信頼し、どんなアイデアでも活動を制限することなく試させてくださった先生方に、大変助けられました。この活動が子どもたちにとってどう有益なのか、それぞれの先生がご自分の言葉で語ってくださる姿がとても印象に残っています。

コーディネーター：認定NPO法人S.T.S.ポット横浜 (紹介はP.3)



こぼれ話

4日目の山づくり。自分の作品づくりにあまり積極的になれない子どもも、火山を作っている友達の方へ「これ使った？」と悪いペットボトルキャップを投げて、自分なりの形でものづくりの時間に参加しようとしている姿が見られました！



りよく えん
緑園義務教育学校 (泉区)
後期課程

実施クラス：7～9年生 表現・未来デザイン科
 ダンス・音楽・美術総合コース選択生徒
 対象人数：22人 (7年生9人、8年生7人、9年生6人)
 実施日程：全4日 (2022年9月5日、10月7日、
 11月14日、11月28日)

令和4年度に開校した緑園義務教育学校の後期課程にて、一人ひとりの個性を伸ばし、表現力を高めるための教育課程として新設された「表現・未来デザイン科」の時間で授業を行いました。「表現すること」に対する恐怖心や羞恥心を越えた先にある楽しさを感じられるよう、授業最終日の個人発表に向けて、さまざまな角度から「表現」について考え、体感・実践する授業内容が設定されました。

授業の流れ

Day 1 【「表現ってなんだ？」を考える】「表現」と聞いて生徒たちが思い浮かべるイメージを共有することから授業が始まりました。前半は、作品の映像やアーティストが持ち寄った作品集などを見て、古今東西のさまざまな「表現」に触れた。後半は、「誰とも被らない言い方でありがとうを言う」、「誰とも被らない手の上げ方をする」、「ピアノの音に合わせて歩く」など、お題の通りに簡単な「表現」にチャレンジするワークを行った。

Day 2 【インプット (受け取り方) について考える】さまざまな「表現」に触れ、自分が何を感じているかを自覚し、言葉にする練習を行った。アーティストから「感想」はどんな形でも良いことが伝えられた後、生徒たちは教室の椅子、写真や小物、生のパフォーマンスなどを鑑賞し、感想を書き起こした。後半は教室を飛び出し、校内で自分が気になった場所や物を chrome book で撮影し、対象について感じたことを紙の上で自由に表現した。

Day 3 【アウトプットの方法、形を考える】2回目の授業で撮影した写真の鑑賞会が行われ、クラスメイトが撮影した写真の中から1枚を選び、心が惹かれた理由を発表した。次に2グループに分かれ、教室にある椅子、テープや発泡スチロールなどを使ってオブジェを作った。完成したオブジェを撮影し「なぜその部分を撮ろうと思ったのか」を共有することで、一人ひとりに他者と被らない自分だけの視点や切り口があることを体感した。

Day 4 【発表&フィードバック】「何でもないもの (教室の椅子) から何かを生み出してみる」をテーマに、生徒たちが制作した作品の発表会を行った。一人ひとりがクラスメイトの前に立ち、プロジェクターに作品の画像を映しながら、作品ができた経緯やこだわりを自分の言葉で語った。写真1枚の作品、複数の写真を連ねたコマ送りの作品、写真にイラストを描いた作品、動画、楽譜など、個性豊かな作品が出揃った。

こぼれ話

1回目の授業から長井さんが繰り返して伝えていた「人の表現を絶対に笑わないこと」。自分の表現を誰にも馬鹿にされない安心安全な場が作られ、生徒たちは少しずつ表現にチャレンジしていきました。他の授業では怒られるようなことも表現の一つとして認めてもらえるので、「あの授業おもしろそう」と口コミが広がり、個人制作の時間を他コースの生徒が覗きに来ることもありました。



アーティストの声

長井江里奈 (舞台芸術集団「山猫団」主宰/ダンサー、演出家、ワークショップファシリテーター)

緑園義務教育学校前期課程と同様、長井江里奈さん率いる山猫団の皆さんが授業を行いました。アーティスト紹介はP.13をご覧ください。

アシスタント：北岡優 (ピアニスト、パフォーマー、楽曲制作)、鈴木結香 (ダンサー、振付家)、ニシハラノリオ (かぶり物アーティスト、造形作家、舞台美術家)、山下彩子 (ダンサー、アーティスト)

どんな形であれ「表現」するのは楽しいことなんだ、という考え方のベースを作りたいと思いながら授業を行いました。「今は誰かに笑われることなく自分を表現して良い時間なんだ」ということを生徒たちは早い段階で受け入れてくれましたが、これは若さによるところが大きいと思います。人は心のどこかに、ジャッジされたくない、馬鹿にされたくない、笑われたくないという気持ちがあり、歳を重ねるほどに「自信がない」、「恥ずかしい」という重たい鎧をまとっていきます。その鎧はとても苦しく、大人になってから脱ぐのはかなり難しい。なのでそういった鎧をまとい始める年代の生徒たちに「そういうのいらないよ」と伝えることで、彼らの未来が少しでも良い方向に変わっていただけると願っています。

先生の声

山猫団さんのプロフェッショナルな指導によって、生徒たちが回を追うことに容容していき、人前で自分の思いや意図を出してみよう、表現してみようと考えて行動するようになりました。個人制作の時間に「休憩ってとらなきゃいけないの?」と聞きに来るほど熱中していた姿は強く印象に残っています。普段の学校生活ではNGなことも、芸術や表現の場では当たり前の変り、こんな風に生徒の能力を引き出すことができるのかと痛感しました。外部講師をお呼びして行うこの授業は、生徒も教員も大きな刺激と成長を得られると感じています。

子どもたちの声



最初は感想を述べることにコンプレックスを抱いていましたが、今は表現することに自信が持てました/表現することが得意になったわけではないけれど、人前で発表する勇気がつきました/一人ひとりについて考えてくれてとても安心して楽しく授業を受けることができました/前は自分を表現することが怖かったけど、最後の発表の時に、誰にどう思われてもいいから自分を表現してみたいと思うことができました/自分にも才能があるんだと思いました/躊躇せず自分がしたいことを積極的にやればいいものが作れると分かりました

コーディネーターの声

どのように発言・反応をしても、しなくても、アーティスト5人の視点と感性で一人ひとりが認められ、安心した空気になっていきました。表現者として傷ついてきた経験や、それでも表現することで誰かが共感してくれることなど、アーティストの言葉を実感に受け止める姿を何度も目にし、まさに今、大人に言ってほしい言葉だったのだらうと感じました。勇気をもって表現する経験を重ねたことで、他者が表現したことへ敬意を払うようになっていったのも驚きでした。たった4回の授業でここまで素直に受け取って、自分の殻を破ろうと挑戦してくれた生徒たちに、リスペクトの気持ちでいっぱいです。

コーディネーター：認定NPO法人S.T.スポット横浜 (紹介はP.3)

盲特別支援学校 (神奈川県)

幼稚部から高等部のクラスを対象に、4つのプログラムを6日間に分けて実施しました。授業ごとに異なるアーティストが来校し、至近距離でプロのパフォーマンスを鑑賞したり、合唱などでアーティストと共に「表現」に挑戦したりと、それぞれの子どもたちに合わせた、音楽をより身近に感じるための個性豊かなプログラムが用意されました。

Program 1 「パパゲーノのお話」オペラ体験

実施人数：中等部 15人
実施日程：11月10日、11月17日

プロの音楽家の声を間近で鑑賞し音楽の素晴らしさや楽しさを感じることを、合唱パートに参加し表現の楽しさを知ることを目標に授業を行った。初日はモーツァルトのオペラ「魔笛」に出てくる3人の天使の「ハルタイン ハルタイン」の部分をアーティストと共に練習した。2日目は「魔笛」の登場人物・パパゲーノが冒険する30分のハイライト版を上演し、生徒たちは合唱パートに参加した。



アーティストの声

大山大輔 (バリトン歌手)

根本真澄 (ソプラノ歌手)

宇根美沙恵 (ピアニスト)

数々の作品で主役として圧倒的な存在感を示す。台本執筆、MC・ナレーション、歌唱・演技指導にも定評があり、新たな事業創出や音響育成にも積極的に取り組んでいる。

クラシカルな歌謡アプローチはそのままに、電子楽器や即興演奏を取り入れた楽曲に意欲的に取り組んでいる。2020年サルビア・アーティストバンク登録アーティスト。びっくらなーべ所属。

これまでに日本音楽コンクール、浜松国際音楽アカデミー、ローマ音楽セミナー等にて公式ピアニストを務める。現在、東京藝術大学音楽学部非常勤講師(演奏研究員)を務める傍ら、リサイタルやNHK-FMにて国内外の著名演奏家と共演を重ねる多岐にわたる活動中。

目の前で起きることへの期待感があることを感じました。生徒の皆さんと向き合うことで、オペラは衣裳や小道具など視覚的な示唆があり、これまで視覚に頼りすぎていたと考えさせられました。言語化したことへのダイレクトな反応があり、丁寧に音で表現することの大切さに気付かされた本番でした。(大山)

Program 2 ピアノとおはなしコンサート「てぶくろをかいに」

「てぶくろをかいに」という物語を朗読とピアノで届ける鑑賞型の授業を行った。より鑑賞体験を深められるよう、授業の初めに物語の登場人物の紹介や、シューベルトの「魔王」を弾きながらピアノによる情景描写について話をした。コンサートでは、物語の冒頭と終盤、場面転換にピアノの演奏を入れ、子どもたちは物語の世界を想像しながら、静かに耳を傾けた。

【実施クラスA】
実施人数：小学部低学年 7人
実施日程：12月14日

【実施クラスB】
実施人数：幼稚部 2人、小学部高学年 8人
実施日程：12月16日



アーティストの声

倉田莉奈 (ピアニスト)

伊原農 (俳優)

国内外のコンクールにて入賞。2013年より、フランス語・日本語で後進の指導にもあたっている。かなっくホール レジデントアーティスト。

ハイランド主宰。主な舞台は新国立劇場「どん底」作：ゴッリキー演出：五戸真理枝 (2019)
加藤能一事務所「目が目にしみる」作・演出：塚本之 (2020)

お話の前にシューベルトの紹介で「魔王」の冒頭を弾いたのですが、その音に反応して涙をばらばら流してしまった子がいました。他の子どもも皆、音の一つ一つ、音色の変化に敏感に反応してくれました。誰かにとっては「ただの音」かもしれないその音は、他の誰かにとっては宝物になるかもしれない。音や言葉の持つ無限のパワーをいつも以上に感じながら演奏しました。こういったプログラムは、ホールに行く前のステップを担える活動なのかなと感じています。ホールに行くのはハードルが高いと感じても、学校にアーティストが来たら、何気なく授業を受けているうちにいると興味を持つことができますよね。子どもが興味を持つ入口を作れるよう、こうしてホールの外に出て音楽を届ける機会が増えると嬉しく思います。(倉田)

Program 3 弦楽トリオで聴くバッハ「ゴールドベルク変奏曲」

弦楽器のヴァイオリン、ヴィオラ、チェロを知り、クラシック音楽の名曲や音楽史に触れることを目的に、クラシック音楽の鑑賞型の授業を行った。弦楽トリオ「トリオ AXIS」が有名な曲を次々と生演奏し、クラシック音楽を身近に感じ、楽しむ時間となった。

実施人数：高等部普通科生活コース 5人
実施日程：2023年1月19日



アーティストの声

トリオ AXIS (弦楽トリオ)

広島交響楽団元第一コンサートマスターの佐久間聡一、日本の主要オーケストラの演奏首席やスタジオミュージシャンとしても多岐を極める生野正樹、ドイツ・バイエルン国立歌劇場で研鑽をつみ帰国後多岐なジャンルで活躍する本原貴志の3人により、2019年ハーモニーホールふくいにて結成、ホールレジデントアーティストとして横浜県内各地で活動を展開し好評を得ず。ファンとの交流や弦楽器を学ぶ子どもたちへの指導なども積極的にやっている。

一つでも知っている曲があればと考え、有名な曲を短くたくさん演奏するよう心がけました。演奏を聴く生徒さんを見て、時代を超えて感動を与え続ける音楽の持つ力に、改めて感動しました。演奏にあわせて身体を揺らしてリズムをとるなど、音楽でコミュニケーションがとれたこと、また、「いつか共演したい」という生徒さんの感想も、大変嬉しく思いました。

Program 4 落語 de ワーグナー

バリトン歌手、ピアニスト、壺家がコラボレーションし、音楽と落語を楽しむ鑑賞型の授業を行った。生徒からリクエストのあった寿限無のお断り、19世紀のドイツを代表する作曲家であるリヒャルト・ワーグナーのオペラの一部が披露された。授業の最後には、ワーグナーのオペラの一節を、アーティストの演奏に合わせて、生徒たちがドイツ語で合唱した。

実施人数：高等部職業総合コース 10人、生活コース 3人
実施日程：2023年1月31日



アーティストの声

大山大輔 (バリトン歌手)

宇根美沙恵 (ピアニスト)

瀧川鯉丸 (壺家)

Program 1 を参照。

Program 1 を参照。

2011年に瀧川鯉丸入門。前座名「鯉丸」で4年間の前座修業を行い、2015年に二ツ目に昇進、「鯉丸」となる。現在は公益社団法人落語芸術協会会員。都内専修をはじめ、全国の落語会やのべ200以上の学校公演に出演している。

私は2つのプログラムに参加させていただきましたが、子どもたちは抵抗なく声を出して歌ってくれたり、話を聞いてくれたりと、スッと私たちを受け入れてくれました。授業後はいつも素直な気持ちを伝えてくれて、私たちにとっても非常に爽やかな時間になっています。(宇根)

昨今は映像などビジュアル的な娯楽が溢れているので、こういった商いをしていると、スッと言葉が伝わりづらいように感じることもあります。今回授業をした子どもたちは耳の感性が研ぎ澄まされているので、一生懸命に音を聴いてくれて、言葉に対してダイレクトに反応を返してくれたのが、とても嬉しかったです。(鯉丸)



Program 2 こぼれ話

幼稚部と小学部の子どもたちを対象に

行われた、ピアノとおはなしコンサート「てぶくろをかいに」。

鑑賞体験がより深まるよう、先生方が物語の内容に合わせて事前に赤い手袋を編

んで、子どもたちの気持ちを高めていました。そのおかげか、伊原さんが物語の説明をすると

子どもたちから活発な意見が飛び交い、微笑ましい雰囲気の中でコンサートがスタートしていました！

先生の声

Program 1

プロの音楽家と言葉でコミュニケーションをとりながら演奏の中に入っていただける内容で、生徒たちはリラックスして楽しめていました。身体に響く人の声によって、一人ひとりがいるいるなことを感じたようです。進行役の大山さんは生徒との距離の取り方がとてもお上手で、生徒たちはハートをわしづかみにされていたように思います。

Program 2

演奏が始まるとサッと耳を澄ませ、心に向けて観賞している姿が印象的でした。今年度は授業回数を多くいただいたことで、学年やコースごとに少人数の授業を設定し、アーティストとより近い空間で体験を共有できました。生の音を聴くという体験は感性を豊かにするうえでとても大切なことなので、通常の授業では用意できないこのプログラムをありがたく感じると同時に、できることなら頻繁にこういった授業ができると良いなと思います。

Program 3

トリオ AXIS の皆さんは、事前に生徒たちの様子について尋ねたり、演奏しながら子どもたちの様子に合わせて対応してくださり、とてもありがたかったです。気持ちの表出が難しい生徒、感情の起伏があって感激で泣いてしまう生徒など、一人ひとりが個性的な生徒たちですが、体験する機会の少ない彼らが、生の音楽に対して自分のできる表現をする姿が印象に残っています。

Program 4

初めて聴く取り合わせのようですが、子どもたちは先入観なく入り込むことができたと思います。今回はこちらの依頼もあり、落語とオペラでそれぞれの演目を披露していただきましたが、断家さんをストーリーテラーに曲を聴かせる形にすると、より2つの要素が融合して子どもたちに届くかもしれないと感じました。



子どもたちの声

音域が広くレベルの高い歌を聴けて楽しかったです／みんなで歌声で参加できたのが良かったです／オペラの世界に引きこまれました／落語を生で聞いたことがなかったので、迫力があって楽しかったです／一緒に落語をやってみようと思いました／また学校に来てほしいです

コーディネーターの声

鑑賞を深めるための導入パートでは子どもたちの持つ知識や情報の豊かさに、鑑賞パートでは音に対しての優れた感性に驚かされました。オペラの事前学習や、朗読劇の内容に合わせて事前に毛糸の手袋を作成するなど、先生方のきめ細やかに子どもたちに寄り添う姿に感銘を受けました。アーティストの奏でる音、そして優しい語り口が、教室を楽しく和やかな雰囲気してくれました。「いつか一緒に演奏したい」と感想を伝えてくれた生徒がおり、その言葉に感動をいただきました。優しく子どもたちに接していただいたアーティストの皆さんに敬意を表すると共に、良い環境をつくってくださった先生方に心より感謝いたします。

コーディネーター：神奈川県民文化センターかなっくホール
(紹介はP.3)